

令和5年度 普通会計決算の状況

歳入

3,316億円

【歳入の内訳】

カッコ内は構成比

■一般財源 1,883億円(56.8%)

(使い道が特定されず、どのような経費にも充てられる財源)

①都区財政調整交付金 1,127億円(34.0%)

②特別区税 548億円(16.5%)

③その他一般財源 208億円(6.3%)

■特定財源 1,433億円(43.2%)

(使い道が限定された財源)

①国庫・都支出金 1,086億円(32.8%)

②繰入金 161億円(4.9%)

③繰越金 74億円(2.2%)

④使用料 43億円(1.3%)

⑤地方債 0億円(0.0%)

⑥その他の特定財源 68億円(2.1%)

歳出

3,172億円

【歳出の内訳】(目的別歳出)

カッコ内は構成比

1 民生費 1,934億円(61.0%)

(1) 社会福祉費 56,671(百万円)

(2) 老人福祉費 25,741(百万円)

(3) 児童福祉費 61,654(百万円)

(4) 生活保護費 49,349(百万円)

(5) 災害救助費 1(百万円)

2 教育費 501億円(15.8%)

3 土木費 230億円(7.3%)

4 衛生費 209億円(6.6%)

5 総務費 185億円(5.8%)

6 労働費・商工費 55億円(1.8%)

7 公債費 35億円(1.1%)

8 消防費 11億円(0.3%)

9 議会費 10億円(0.3%)

10 農林水産費 1億円(0.0%)

※ どのような目的に支出したかを示しています。

なお、人件費はそれぞれの費目に含まれます。

注) 金額等は、表示単位未満の端数調整をしていないため、加減乗除した数値が一致しない場合があります。

令和5年度 普通会計決算の状況

- ・歳入総額(3,316億円)は、前年度比△93億円、2.7%の減でした。
 - ・歳出総額(3,172億円)は、前年度比△97億円、3.0%の減でした。
 - ・形式収支(歳入から歳出を差し引いた残り)から、翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支は125億円でした。
 - ・実質収支比率は、6.7%(前年度より0.7ポイント減少)で、望ましいとされる割合を上回りました。
 - ・経常収支比率は78.6%(前年度より2.7ポイント増加)で、3年連続で適正水準とされる80%以内を維持しました。
 - ・歳入の34.0%(1,127億円)を、都区財政調整交付金が占めています。
 - ・歳出の53.0%(1,680億円)が義務的経費(人件費+扶助費+公債費)です。
 - ・生活保護費や保育園の運営費などの扶助費は、前年度比で25億円増加し、歳出全体の40.2%(1,275億円)を占めています。
 - ・区の借金にあたる特別区債の現在高は、前年度比で33億円減少し、189億円となりました。
 - ・区の預貯金にあたる基金の現在高総額は、前年度比で42億円増加し1,858億円となり、将来の財政負担に備えています。
 - ・健全化判断比率は、いずれの数値も健全性を維持しています。
(財政状況の悪化による自治体の財政破綻を未然に防ぎ、適切な是正措置が取れるよう公表を義務付けられた指標です)
- ▶詳しくは、「令和5年度 普通会計決算のあらまし」をご覧ください。